慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	非関連分野への多角化展開
Sub Title	
Author	左近潮二(Sakon, Shioji) 山根節
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2001
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2001年度経営学 第1687号 可能
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002001-1687

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

論 文 要 旨

所属ゼミ	山根研究会	学籍番号	No.80028423	氏名	左近潮二

（論文題名）

非関連分野への多角化展開

（内容の要旨）

多角化戦略において、今まで規範的命題とされてきたのは、企業が多角化を成功させるには、既存の経営資源との関連性が重要であるというものであった。しかし、関連性に固執して、本業周辺に留まるのであれば、既存事業の成熟とともに企業も衰退してしまう。環境の変化が旧来の企業の価値観を否定してしまうようなものである場合、企業は自身を連続的に変化させていかなければならず、時として、既存事業からの飛躍、本業回避が求められるのではないだろうか。

このような問題意識から本論文は、従来の議論では等閑視されてきた非関連多角化の飛躍性に注目し、ゼネラル・エレクトリック（GE）、旭化成、積水化学、ソニー銀行、アイワイバンクの5社の事例研究を行い、非関連多角化の実際を観察した。そこから導出されたモチーフは、人間固有の飛躍性である。

非関連多角化において、新天地に組織を率いていくためには、生身の人間であるトップマネジメントの、強いリーダーシップが必要である。また、開発や販売といった、事業の現場に携わる人たちの創意工夫や思いがけない着想も、事業の飛躍的展開の源泉となる。また、購買主体である顧客が人間である以上、ニーズは複雑に変化し、時として企業の思いもよらないかたちを取る。このニーズに真剣に向き合うことが、結果として事業の飛躍をもたらすことがある。

以上のように、非関連多角化という経営現象に、人間軸というヨコ串を通してみると、そこには人間ならではの飛躍性が存在することが分かる。非関連多角化というのは、従来の経営理論のフレームワークから外れた特異点であるが、特異点だからこそ、経営の本質であるこうした人間性を如実に表わしている。

無論、飛躍性のみで経営現象を読み解くことはできない。しかし、このような経営の人間的側面に注目し、「自立」、「未来志向」、「成長」といったキーワードを意識しながら企業戦略を策定することは、持続的競争優位の確立に大いに寄与するのではないだろうか。